

今、総評が、丁川民衆の親帝右派の運動の台頭につい
 に備し、社会党支持に固執しない。総評の解体。という提議
 をもって、中野戦線の右寄り再編は、更に拍車をかかつてきた
 。自身、社会党は、サラリーマン向け資金斗争しなせうないし
 自分たちの平和と民主主義的生活が、アジア人民に対する搾取
 と抑圧の構造の上に成り立っていること及び、一切、無自覚な
 のだ。(日共の悪しき典型「臨時工」でも、〇〇なのに、本
 土の教々々△△だとは。我々の要求を打ちこるまで頑張ろう。)
 自分たちの攻撃に対しては、左に反戦、全共共を切るへ日共に至
 っては、自ら殺し屋をなつてやる。というゴマズリで、身の安
 静を図ろうという彼らは、軍事化阻止斗争においても、全共考
 や全軍の斗争の反打も押しつぶして、反戦派の排除を図
 るつとしている。彼らはこの集会、ホモと関係ない。だから
 毎朝集会、ホモです。村田隊の首さん。彼らをつかまえても
 結集す。このマルシヨワの自己保身主義者は、そのうち、
 自分たち。日本国民の生活の安危のためには、朝鮮人や華者
 等は、煮いて食おうな焼いて食おうな好きなようにして下さい
 じいさんも言ひ出しなぬない。

外なる、そして、内なる「オセ世界人民」の革命的連帯が
 島のインターナショナルリズムが、今、日帝が、アジア侵略反
 撃戦へ向けた体制作りを、我々「日本人」を動員して強行的に
 進めんとしているこの時に、全ての斗争勢力に向われているの
 だ。

「我々黒人に対する血の産物を前にして、白人が直ちに銃をと
 り、いなくなれば、われわれは階級闘争の甘い夢をこれ以上買つづ
 けぬわけにはいかない。われわれには人種戦争を、残されてい
 る。(エルドリッジ・クリバーン)

(3) インドシナ人民の自己救済呼応し、6月反帝全国大政治斗
 争を佐藤内閣主義政府に向けて、組織せよ。
 6.14 中央結集大斗争を指導し、6月長期ストを、クラス・セ
 ミの先行的打ち抜きを引きずり出せよ。

6月22日の安保期限切れと自動延長という形で、革新勢力と
 の対決をやり、6月段階を政治的無反動態山城内平和路線によ
 つて乗り切らんとしているのは、単に6月斗争のホコ尻を絶つ
 せよつというこのみならず、現実には穏然たる流れとして進行
 している帝国内主義再編を、国会での審議をやり行政ベースで次
 々と具体化せんかためである。しかし、インドシナ革命斗争の
 高揚は、一方で東アジア革命に永続的に成長・転化する可能性
 を抱き、必政に他方で、これに恐怖する日帝の反革命的対応を
 アジア会議への積極的参加として白日の下に現れた。日本は
 東南アジアの政治向赴に大きな現実的興味を示しはじめたよう
 だ。経緯のあらは政治、そのあらは……。アジア会議を決定
 的契機にインドシナ向赴への政治的介入の資格を手に入れた日
 本帝国主义は、①ロン・ノル人民産政政権の政治的支持 ②そ
 れへの全面的な援助の遂行 ③米帝を補いつつ、同時に
 独自のヨーロッパに導かれた、アジア「自由諸国」の盟主とし
 ての、反革命的外交の全面化として急年度の画期的転回をな
 さんとしているのだ。日帝にとつての6月23日安保自動延長と
 いう形式は、それ以後は、通告一年で安保を破壊せよと
 いう意味で、まさに米帝の命をハナれ、「自主独立する意志を
 固めること」なのだ。そのために、日米共同声明路線「70年安保
 下、米帝との利害を調整しつつ(日米繊維交渉など)、将来の
 「完成された帝国内主義日本」へ向けた体制作りが、7月6日には
 何もなし。という声の裏で、着々と進められていることに注視
 せよ。そして、それに対する闘いがないと、この体制崩壊は

何もない。という声の裏で、着々と進められていることに注視
 せよ。そして、それに対する闘いがないと、この体制崩壊は

れていることに注視せよ。インドシナ革命斗争の下で、早まり
 つつある日本帝国主义との全面的政治決戦の到来の不可避性を
 明確にとらえつつ、日本帝国主义の「城内平和」に組み込まれ
 つつある、親帝右派の運動および、共社プロ、クル人民戦線
 派に對して、革命的階級を領トされる全国的・大衆的な反帝統
 一戦線の総力で、6月斗争を闘い抜き、新たな政治決戦を闘い
 抜くべき主体と戦線を打ち集めよ。

- 5.29 全国一斉反軍反基地斗争
- 宇治大々々保基地撤去斗争 (100 京阪宇治石野)
- 6.10 4市大公判斗争 (100 大阪地裁)
- インドシナ革命勝利。日米共
 同声明路線粉砕。佐藤内閣主
 義政府打倒。
- 6.12 全国西統一行動 (大阪)
- 6.14 中央結集大斗争 (東京)

『日共の野望』 2
 反帝斗争上戦線了月全国大会
 報告決定集
 発売中。 三百円